報告番号	香大医博甲 第734号

様式102

学位論文の内容の要旨

専　攻	医学専攻	部　門 (平成27年度以前入学者のみ記入)	
学籍番号	16D712	氏　名	近藤彰宏
論文題目	Effect of preoperative chemotherapy on distal spread of low rectal cancer located close to the anus		

(論文要旨)

【背景】
直腸癌において腫瘍細胞が粘膜下層以深で肛門側へ進展することは distal spread と呼ばれている。術前治療を施行していない直腸癌症例では 10mm 以上の distal spread は 4.5-10% に認められ、distal spread に関連する因子として腫瘍の進行度（Stage）、リンパ節転移、組織型（por/muc）などが報告されている。これらの distal spread の存在をもとに、術前治療のない下部直腸癌における distal margin は 20mm が妥当と考えられている。
一方で、術前化学放射線療法が施行された直腸癌症例においては、腫瘍縮小効果に伴って 10mm の distal margin が許容しうるとする報告がある。
しかし、術前化学療法後の distap spread の存在や至適な distal margin の設定については報告されていない。

【目的】
術前化学療法（NAC）を施行した進行下部直腸癌症例における distal spread の頻度と距離を明らかにし、NAC を施行された進行下部直腸癌における至適な distal margin を明らかにする。

【対象・方法】
2012 年 1 月から 2015 年 7 月までに NAC 後に手術を施行した進行下部直腸癌 71 例を対象とした。71 例の患者背景因子、手術因子、術前治療情報などを後ろ向きに収集した。
また、手術検体を用いて病理組織学的に distal spread の有無を検索し、粘膜内に存在する最も肛門側の腫瘍細胞から粘膜下層以深に存在する最も肛門側の腫瘍細胞までの距離と定義した distal spread の距離（Figure.1）を各症例ごとに計測した。
また、10mm 以上の distal spread に関連する臨床的な因子を検討した。

【結果】
distal spread は 71 例中 42 例（59.2%）に認められ、distal spread の距離ごとの症例数は、1-9mm：27 例、10-19mm：11 例、20mm 以上：4 例であった。distal spread の距離の最大値は 35mm であった。
Figure.2 に 10mm 以上の distal spread を呈した症例の病理組織学的所見を示す。

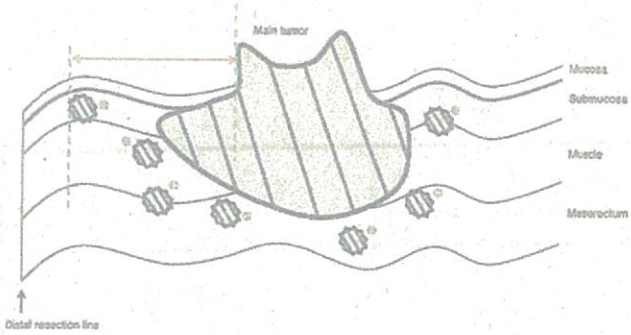

Figure.1

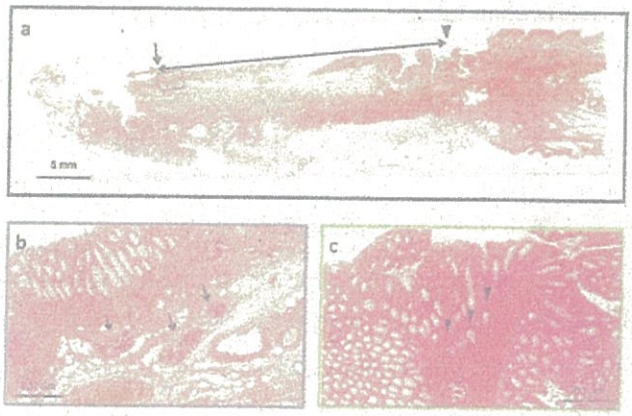

Figure.2

10mm 以上の distal spread は 15 例(21.1%)に認め、組織型が por,muc (5/15 : 33.3%)、MRI の原発巣治療効果判定で SD 例 (9/15 : 60%)、NAC 後の下部消化管内視鏡検査(CS)と MRI の腫瘍縮小効果判定が一致しない(CS:PR かつ MRI:SD)(5/15:33.3%)といった症例で 10mm 以上の distal spread が有意に多かった。
多変量解析では組織型 por,muc (OR=8.86)、CS/MRI の腫瘍縮小効果判定不一致 (OR=11.6) が 10mm 以上の distal spread に関連する独立した因子であった。

【結論】
NAC後の進行下部直腸癌症例ではdistal spreadを高頻度に認めた。術前化学放射線療法とは異なり、distal marginは10mmでは不十分であり20mmの確保が必要と考えられた。
por/mucやCS/MRIの腫瘍縮小効果判定不一致は10mm以上のdistal spreadに関連する因子である。

掲載誌名	Int J Colorectal Dis. 2018 Dec;33(12):1685-1693.		
(公表予定) 掲載年月	2018 年 12月	出版社（等）名	Springer
Peer Review	㊒ ・ 無		

（備考）論文要旨は，日本語で１，５００字以内にまとめてください。